

「漢字の学習」等の教材の中でまとめて学習した漢字であり、「表現」や「理解」領域の教材の中で学習したものではない。これはNRTの時も同じ傾向であった。

以上のことから、「漢字の書き」については、以下のような指導が大切と考える。

ア 授業の中に、その教材で学習する漢字を中心に、漢字を指導する場を意図的に設ける。その中で、字形を正確に覚えられるように、筆順を含めた丁寧な指導を行う。特に、「部首が異なる漢字」や「字形を間違いやすい漢字」については例を示して指導の徹底を図る。さらに、毎時間ごとの簡単な豆テストや、単元終了時の確認のための定着テストを実施する等、繰り返し練習する機会を設け、定着を図るよう工夫する。また、日常よく耳にし、使用する漢字については、なるべく漢字を使って書かせる指導を行う。

イ 「同音異義語」「同訓異字」については、意味や具体的な用法を辞書を活用させるなどして確認させ、違いを整理して指導するとともに、機会あるごとに例を提示する等、「同音異義語」「同訓異字」に対しての意識を高めるよう工夫する。

ウ 漢字の「書き」は生徒の書いた文章により定着の確認ができる。普段の授業の中では、ノート点検の時に、一人ひとりに朱を入れるなど、きめの細かい評価・確認を行い、漢字の「書き」の指導を重視する。

エ 「漢字の練習」や「漢字の学習」等の教材の中でまとめて学習した漢字については、繰り返し学習する機会をつくったり、新聞等を利用するなど、言語と生活体験とを密にする工夫を行う。

4 中学校数学 2年

(1) NRTの結果（平成7年調査）

大 領 域	全 県 通過率(%)	全国比	中 領 域	全 県 通過率(%)	全国比
1 数 と 式	44.6	97	1-1 文字式の四則計算	64.4	103
			1-2 数量関係の文字式での表現と活用	36.0	95
			1-3 不等式の意味とその利用	32.1	92
			1-4 連立1次方程式とその利用	35.1	92
2 図 形	55.3	87	2-5 平行線の性質や三角形の合同など	70.1	89
			2-6 図形の相似	37.6	85
3 数量関係	29.7	83	3-7 数の表現方法と適切な使用	36.1	86
			3-8 1次関数	29.5	81
			3-9 資料を集め整理し傾向を知ること	29.0	88